

トラック業界にも女性活用を

発信力増す存在

座談会

「女性の時代」。こう叫ばれて久しいが、日本の上場企業に占める女性役員比率はわずか2%と、欧米と比べ極端に少ない。物流・トラック業界に目を向けると、女性経営者はまだ数少ない存在だ。それでも、管理や人材育成といった内なる業務を中心に、細やかで気配りに長けるといわれる女性の活用は、円滑な事業運営や業界全体の発信力の向上に不可欠といえよう。全国で活躍する女性経営者・幹部を招き、自社の取り組みや戦略を紹介してもらうとともに、女性目線でのコンプライアンス(法令順守)対策や業界のイメージアップの在り方などについて話し合ってもらった。

父のもとして運送業学ぶ 藤井



池田氏

形を取っています。まだ4年です。米留学し、ソーシャや社会事業管理の。民間企業的なまり持たぬまま入るので、(周囲と)ぶもありましたが、立てるようにはなではないかと思っ

奈良 まず、自社の概要と自己紹介をお願いします。

池田 「エコトラックは、地球社会の一員としての自覚を持ち貨物運送における低公害車の普及を通して、地球環境保全に取り組むことにより、企業市民としての社会的貢献を果たします」との企業理念に基づき1999年に設立しました。低公害トラックの普及を目的につくった会社で、初め庄瀬天然ガス(CNG)トラック5両でスタートしました。現在は66両を保有しており、うちハイブリッド車が4両で、あとはCNG車

です。最大の特徴は低公害車で運送事業に取り組むこととエコトラックの普及、つまり事業活動と社会貢献の2本柱を経営方針としていることです。お陰さまで業績は毎年伸びており、大型CNG車の開発と本格普及に向けた活動も国や行政、ガス会社、車両メーカーといった関係各者とも取り組んでいます。私は大学卒業後、地元百貨店に勤め、そこで主人と出会い結婚し、ともに退職して主人が立ち上げた運送会社の経営に参加しました。

藤井 1943年に創業し、地元の通運業者としてお陰さまで70周年を迎えました。JRコンテナで農産品、食料品、飲料水、工業原料、紙など多種多様な荷物から専用コンテナやISOタンクを使用した危険物、高圧ガス、毒物、産業廃棄物などの輸送のほか、海上コンテナも取り扱っています。また、トラック

ク貧し切り便と冷蔵・冷凍輸送も手掛けています。私は、主人の仕事の関係で海外駐在生活をしておりましたが、主人の単身赴任を機に福井に戻り、父のもとして運送業を学び、荷主さまや社員に支えられて15年目となりました。

松山 現在も社長を務める父(正二氏)が72年に東京都日野市にある東芝の工場での構内作業を請け負う形で事業

をスタートしました。その後、物流事業が主軸となり、付随する形でエンジニアリング事業部を発足しました。更に警備業など少しずつ事業を拡大し、現在はグループで6社を展開しています。400両を保有し、社員も700人になりました。

環境特化が一番の

西川 父(武司氏)が婚居家具輸送を主要業務に40年前に創業しました。時代の流れとともに輸送の中継拠点として埼玉県の東松山市、東北は仙台市に営業所を構え、現在は多様な荷物の輸送を承っております。2000年に、新潟東港近くで当時、日本海側で最大級の自動倉庫を建設し、また昨年(13年)は新潟市東区の本社近隣地に冷凍・低温倉庫を内包した移動トラック付きの物流センターを竣工しました。

これらセンター業務を核に、お客さまとのSPL(サードパーティー・ロジスティクス)事業を推進していきたいと思っております。私は若い頃から、いずれ何らかの形で役に立てたらと思い、14歳で渡米し、ニューヨークでMBA(経営学修士)を取得しました。大学院卒業後はマンハッタンで商業不動産のブローカーとして働いておりまし

が、自動車交通は現職に就きました。奈良 私は13年4月から自動車交通部長に就きました。運輸省(現国土交通省)に入省後、海事、航空、物流、鉄道の各モードを歴任しました。



出席者(順不同)

- 東群運送/社長 斎藤佳代子さん
- 新日本物流/代表取締役常務 松山 恵美さん
- 福貨通運/常務 藤井ふぢ美さん
- エコトラック/社長 池田 治子さん
- 西川運輸興業/取締役 西川 直美さん (紙上参加)
- 関東運輸局/自動車交通部長

